

3. 河川整備の実施に関する事項

3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに

当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

3.1.1 河川工事の施行の場所

○河川改修

河川工事の施行の場所は、表-3.1.1、図-3.1.1に示すとおりです。

また、局所的に流下能力が不足している箇所については、必要に応じて部分的な改修を行い、既往最大規模となった平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害を防止します。

表-3.1.1 対象河川及び施行区間

河川名	位置	区間延長
野呂川	・ 中畑川合流前(1k520)～郷橋(2k068)までの区間	約 0.55km
中畑川	・ 野呂川合流点(0k000)～堰(1k400)までの区間	約 1.40km

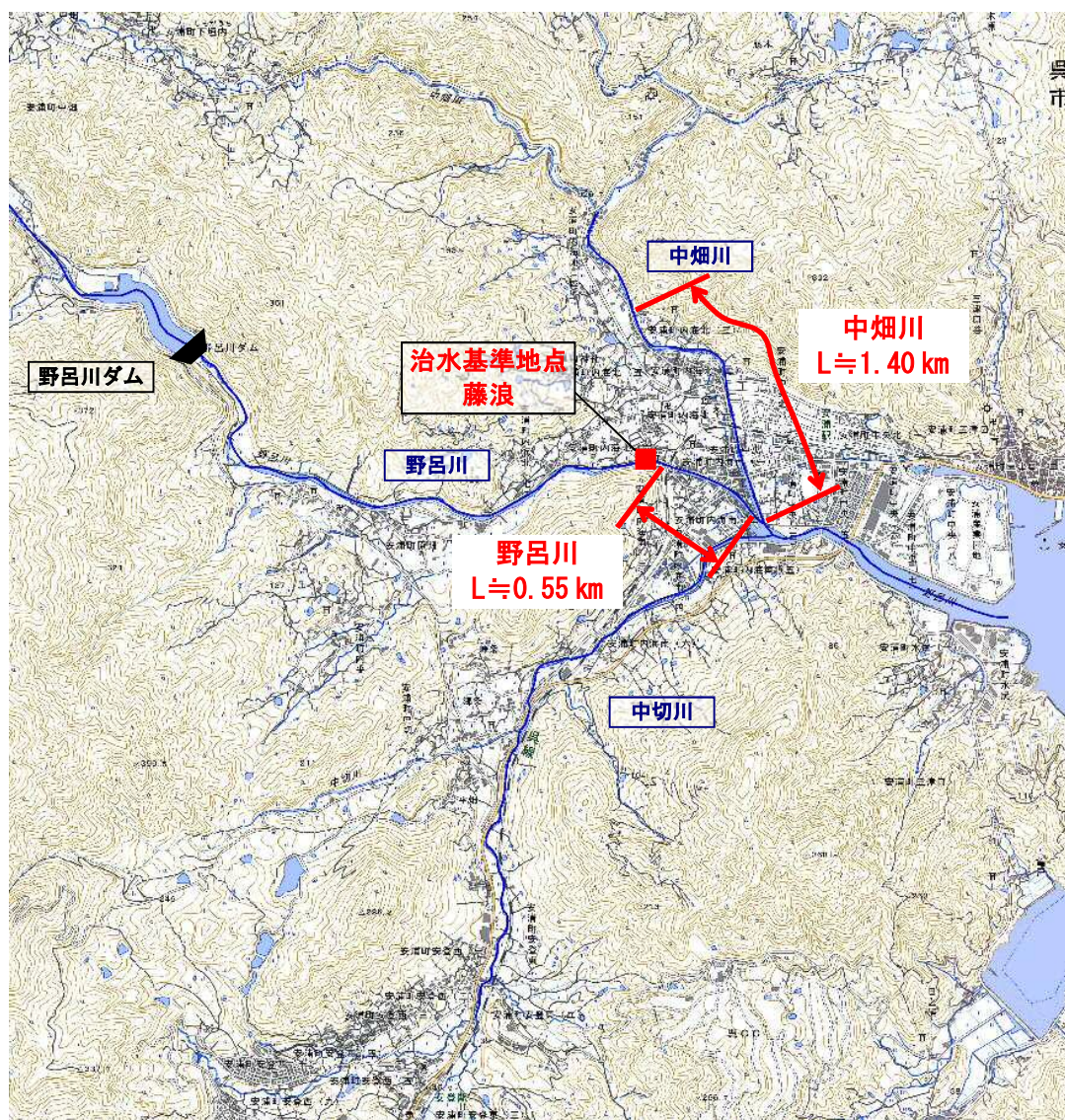


図-3.1.1 河川工事の施行の場所位置図

3.1.2 河川工事の目的、種類及び河川管理施設の機能の概要

(1) 河川改修

① 野呂川

野呂川の河川改修は、野呂川ダムによる洪水調節後の平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害を防止することを目的として実施します。

河川整備の目標となる流量については、基準地点「藤浪」において計画高水流量 $120\text{m}^3/\text{s}$ とし、安浦市街地を流下する河道状況を勘察し、主として河床掘削により、必要な河道断面積を確保します。

なお、河川改修を行う際には、滯筋や瀬、淵の復元を図ります。また、動植物に関しては、その生息・生育・繁殖環境が保全されるよう、必要に応じ、専門家の指導・助言を得ながら、十分配慮するものとし、希少種については、ミチゲーションによる生息・生育・繁殖環境の保全に努めます。さらに、河川整備を行う際には特定外来生物が流域内外に拡散しないように努めます。

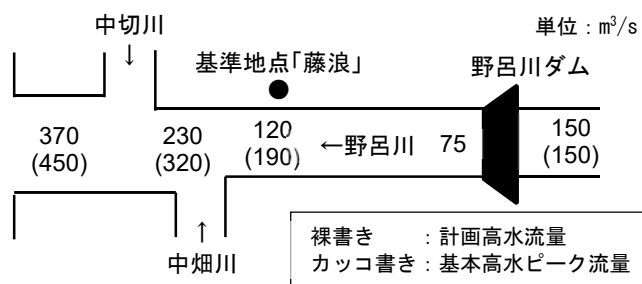


図-3.1.2 河川整備計画目標流量配分図 (野呂川)

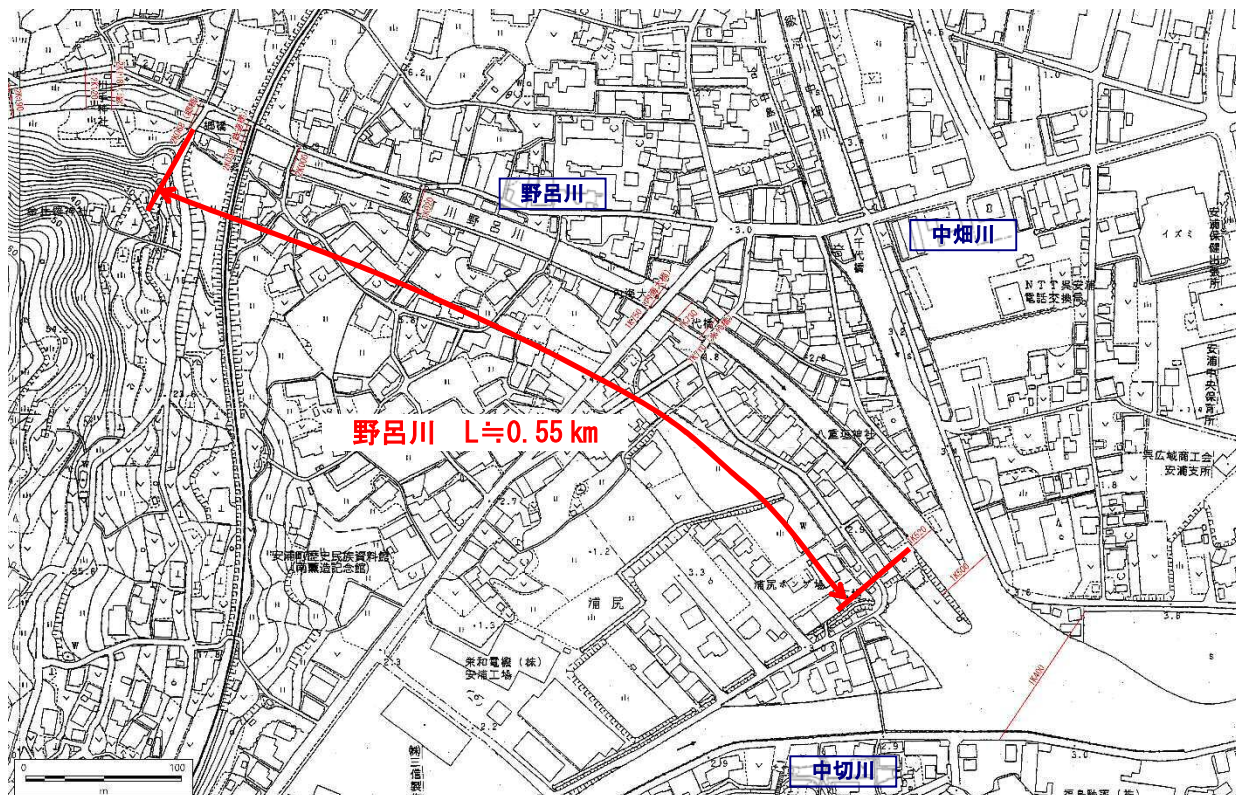


図-3.1.3 野呂川平面図

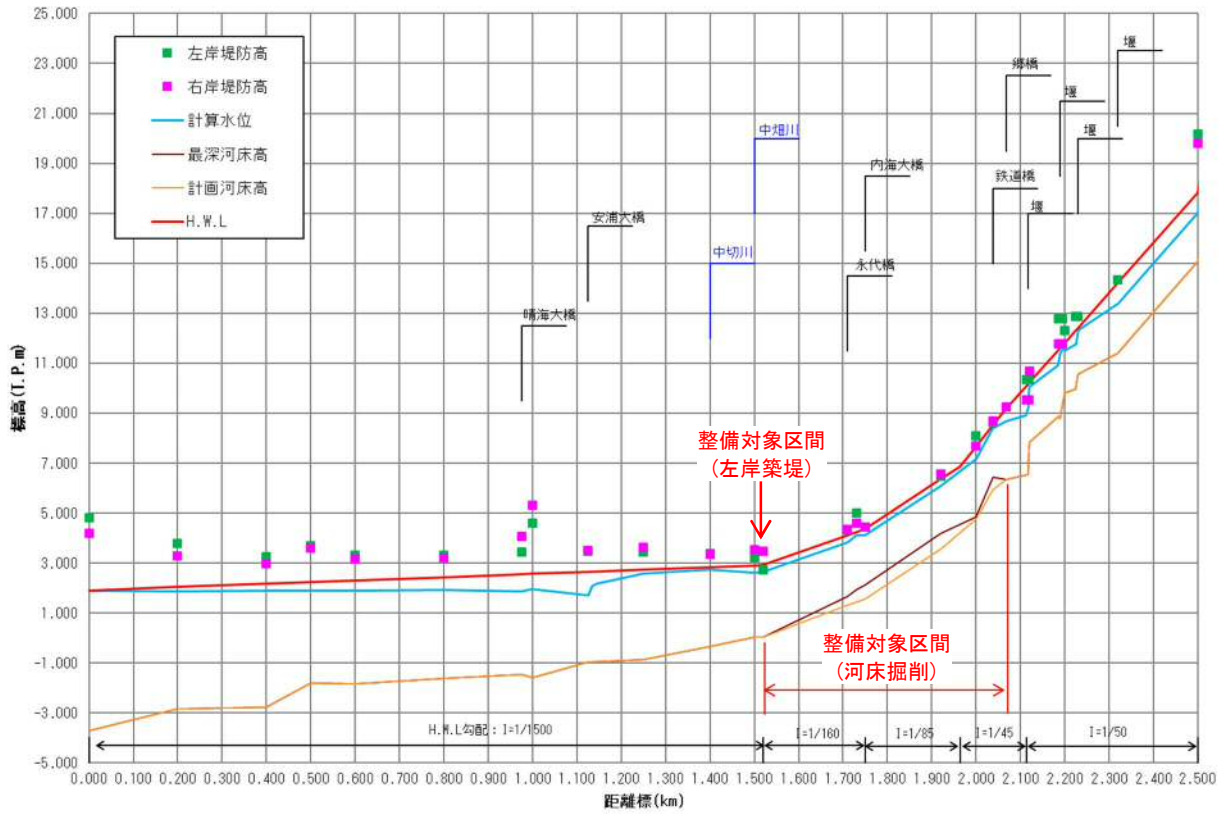
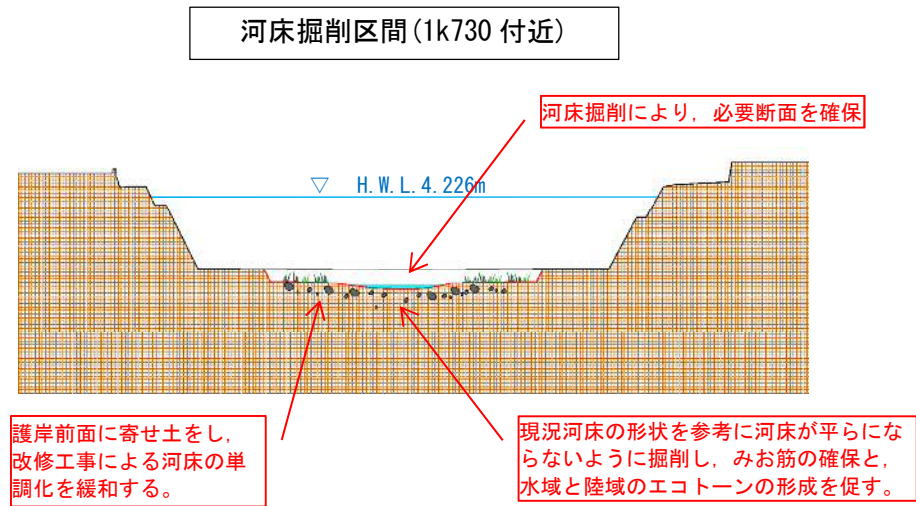


図-3.1.4 野呂川縦断面図



※実施に際しては、今後の調査・測量結果により、護岸の構造が変更になる場合もあります。

図-3.1.5 野呂川横断面図のイメージ図

②中畑川

中畑川の河川改修は、平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害を防止することを目的として実施します。

河川整備の目標となる流量については、野呂川合流点において計画高水流量 $140\text{m}^3/\text{s}$ とし、河道拡幅により、必要な河道断面積を確保します。

なお、河川改修を行う際には、滞筋や瀬、淵の復元を図ります。また、動植物に関しては、その生息・生育・繁殖環境が保全されるよう、必要に応じ、専門家の指導・助言を得ながら、十分配慮するものとし、希少種については、ミチゲーションによる生息・生育・繁殖環境の保全に努めます。さらに、河川整備を行う際には特定外来生物が流域内外に拡散しないように努めます。

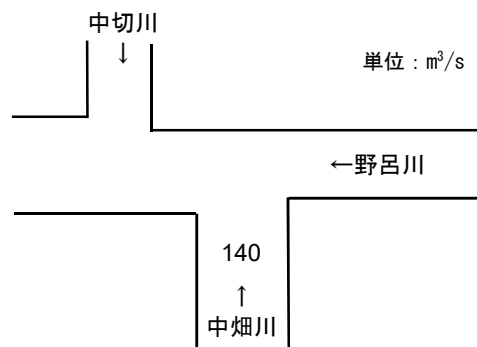


図-3.1.6 河川整備計画目標流量配分図（中畑川）

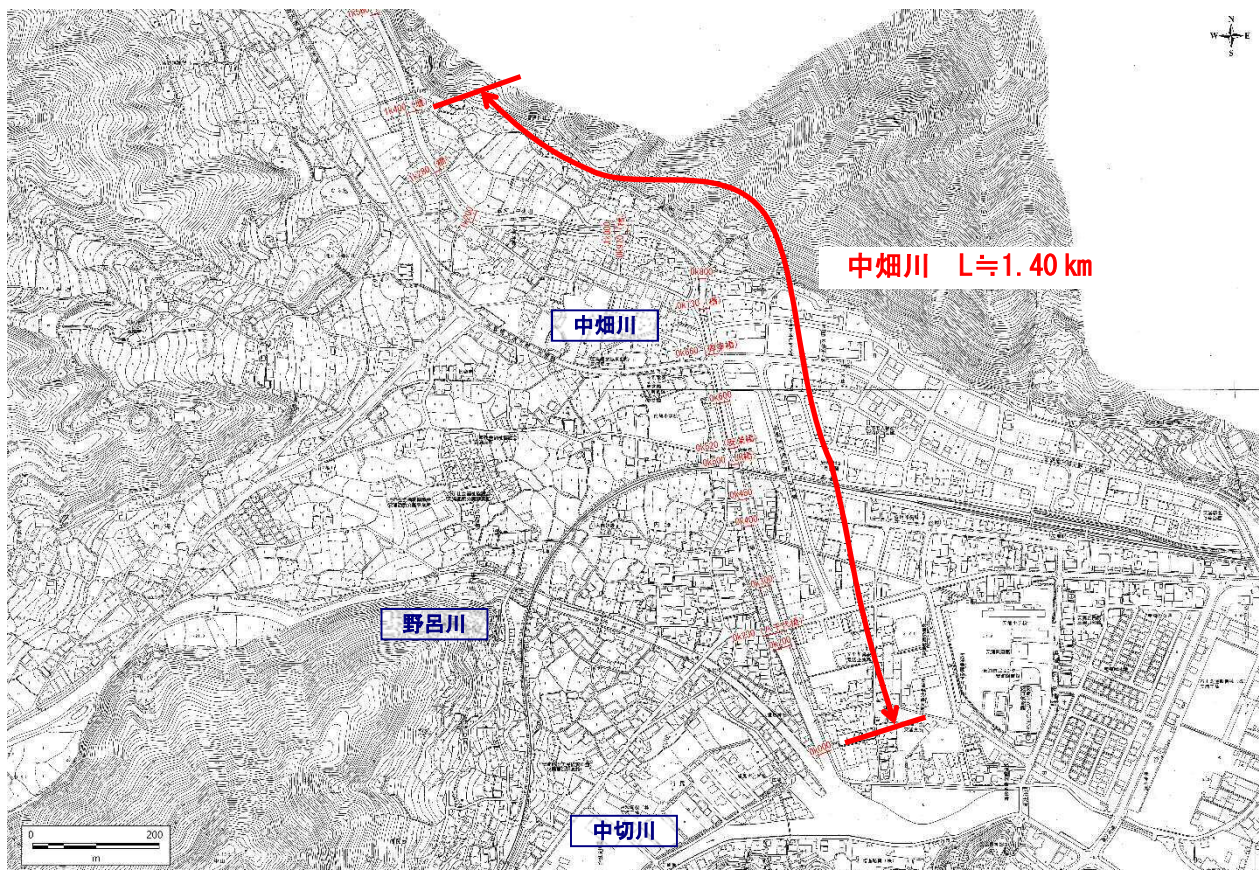


図-3.1.7 中畑川平面図

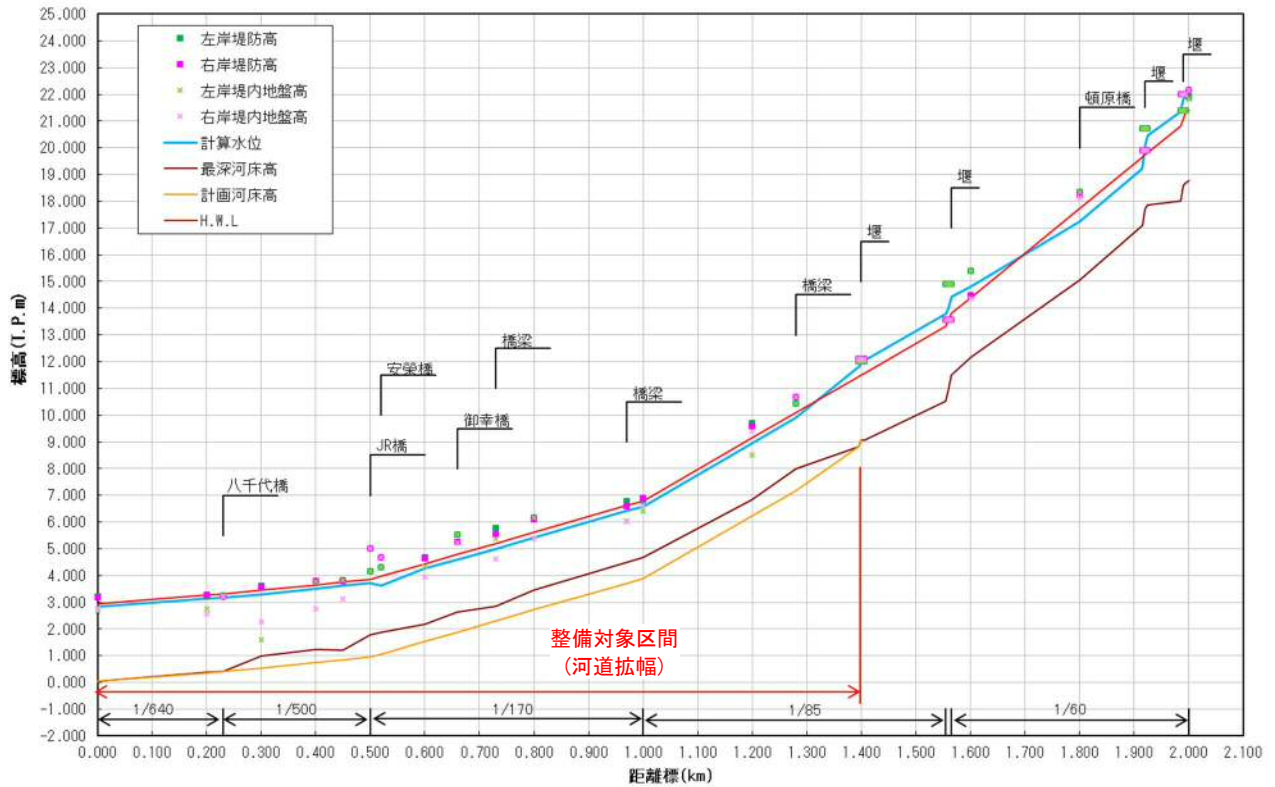
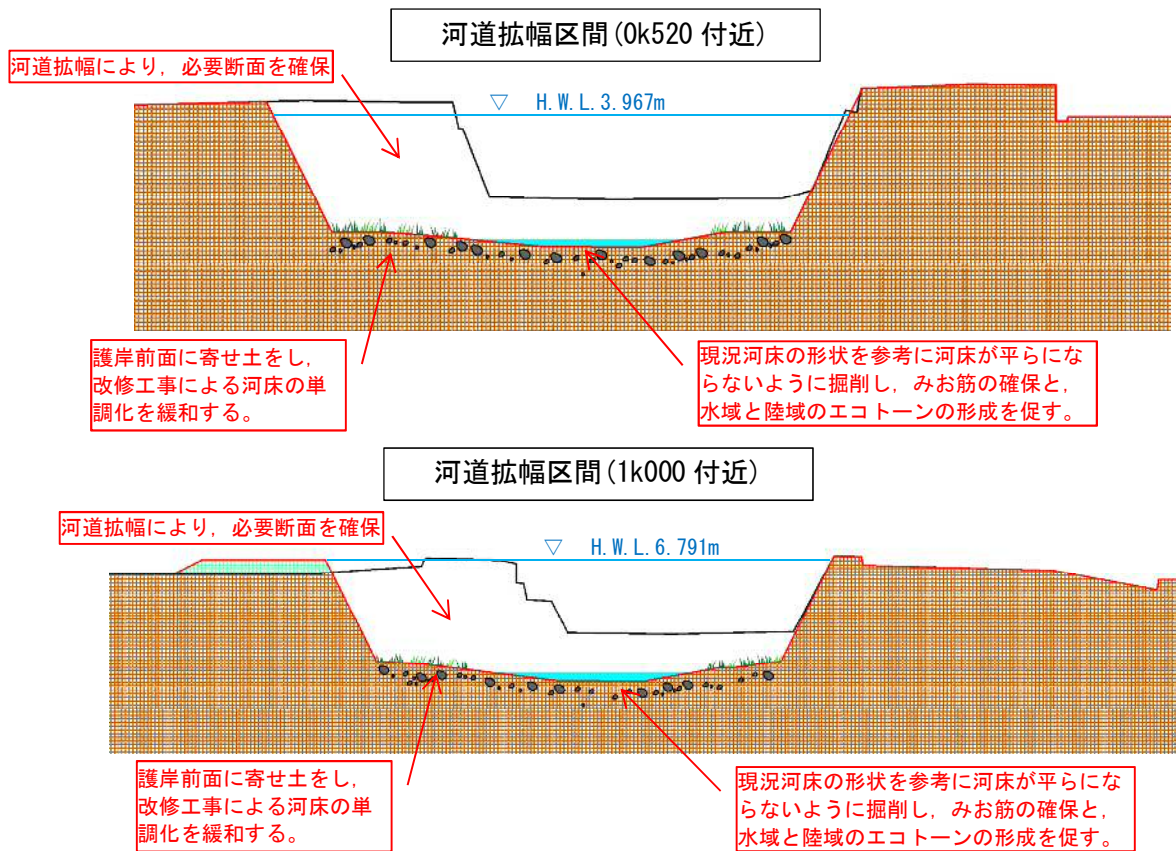


図-3.1.8 中畑川縦断面図



※実施に際しては、今後の調査・測量結果により、護岸の構造が変更になる場合もあります。

図-3.1.9 中畑川横断面図のイメージ図

(2) 土砂・流木対策

平成 30 年 7 月豪雨では、野呂川ダム地点において 24 時間雨量 396 mm、累加雨量 649 mm と記録的な豪雨を受け、河道に流れ込んだ土砂や流木によって、中畑川の越水・破堤や野呂川の溢水が発生しました。野呂川ダムにおいても、貯水内に約 130 千 m³ の土砂・流木が流入し、貯水位上昇の要因となり、洪水調節容量を使い切る見込みとなったため、異常洪水時防災操作を行いました。この記録的な豪雨により、下流域では約 60ha の浸水被害が生じました。

よって、既往最大規模となった平成 30 年 7 月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害が生じないように、河川改修を行います。これと同時に平成 30 年 7 月豪雨で発生した土砂・流木流出に対する対応は必要不可欠であるため、洪水の流下を阻害する土砂・流木に対する対策を実施します。

① 野呂川ダム

平成 30 年 7 月豪雨では、貯水内に約 130 千 m³ の土砂・流木が流入し、貯水位上昇の一要因となりました。

野呂川ダムの操作ルールはゲート開度固定方式(自然調節方式)ですが、平成 30 年 7 月豪雨の土砂・流木の流入が生じた場合でも、野呂川ダムの洪水調節機能を最大限活用することができるよう、野呂川ダム下流(野呂川)の流下能力向上のための河川改修を実施した後、ゲート開度を見直すなど、野呂川ダムの有効活用を図ります。

② 中畑川

中畑川では、河道に流れ込んだ流木によって、橋梁地点の河積を阻害し、橋梁地点上流の河川水位を上昇させ、越水・破堤が生じる一要因となりました。

中畑川では、既往最大規模となった平成 30 年 7 月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害が生じないように、河川改修を行います。これと同時に中畑川上流区間において、流木対策を実施します。

3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

3.2.1 河川の維持の目的

河川の維持管理は、地域の特性を踏まえつつ、洪水による被害の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全がなされるよう総合的に行います。

また、広島県では効率的かつ効果的な維持管理（アセットマネジメント）を実施するため、「広島県河川維持管理計画(案)」を平成21年4月に策定しています。

この計画に基づき、河川巡視や出水期前・出水後など適切な時期に点検を実施し、状態把握及び評価を行い、その点検結果を蓄積するとともに必要な対策を実施することで、「河川管理施設」の機能の維持に努めます。

さらに、ダムについては、「ダム点検整備基準・同解説（広島県）」に定める日常管理に基づく巡視・点検、維持・修繕等を行い、ダムの維持管理（アセットマネジメント）を行います。

表-3.2.1 ダム諸元（野呂川ダム）

施設名	管理者	目的	諸元				
			形式	堤高	堤頂長	堤体積	非越流部標高
野呂川ダム	広島県	洪水調節 既得取水の安定化	重力式 コンクリート ダム	44.8m	170.0m	96,300m ³	E.L.135.8m

3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所

河川の維持の施行場所は、野呂川流域で広島県が管理する全区間とします。

(1) 河道の維持

堆積した土砂等が、治水上支障となる場合は、環境面も配慮しつつ掘削等必要な対策を講じます。また、河床低下により、護岸等構造物の基礎が露出すると災害の原因になるため、早期発見に努めるとともに、河川管理上支障となる場合は、適切な処理を行います。

(2) 護岸、堤防等の維持

護岸、堤防等の河川管理施設については、法崩れ、亀裂等の異常について早期発見に努めるとともに、河川管理上の支障となる場合は適切な処理を行います。

また、「3.1.1 河川工事の施行の場所」に示した河川(区間)以外で、平成30年7月豪雨で家屋浸水被害が発生した区間について、暫定的な護岸のかさ上げを実施するなど、家屋浸水被害の軽減に努めます。

さらに、今後多くの河川管理施設が耐用年数を迎えることが想定されており、これらの施設の機能をより長く発揮させるため、長寿命計画を策定するなど、必要に応じて老朽化対策を行います。

(3) ダムの維持

貯水池について巡視及び堆砂測量等を実施し、貯水池の状況を把握するとともに、ダム本体について変形量及び漏水等の測量を行います。また、観測設備、警報設備及び放流設備についても定期的な点検を行い、その機能の維持管理に努めます。

(4) 植生の維持

良好な河川環境を保全するため、必要箇所の草刈や樹木の管理を地域住民と協力しながら行います。

(5) 汚濁流出の防止

河川改修時に発生する濁水については、動植物の生息・生育・繁殖環境，河川景観等への配慮から、これを防止または、軽減するよう努めます。

(6) ゴミ等対策

野呂川流域のゴミ等対策について、河川巡視により監視の強化に努めるとともに、地域住民・行政が一体となり、地域ぐるみで河川の美化を目指すよう、河川の浄化運動や一般市民を対象に川についての理解を深めてもらう活動などを行います。また、関係機関と連携して対策を検討します。